

7. 採択プロジェクト実施報告

- プロジェクト名称 : 「福島に生きる」を考えるワークショップ

- 代表者氏名 : 経済経営学類 3年 村山 菜月

- 構成員 : 経済経営学類生 7名

- 事業の概要 : 今、福島に生きている様々な立場の人の価値観を知ることによって今福島で自分は何ができるのかを考えてもらい、行動のきっかけにさせていただく。さらに世代間の交流の場を提供することで、福島に生きる各世代との繋がりや意見交換していただき、変化を期待する。

- 主な事業日程 : 2012年 6月 営業活動開始
6月 チラシ制作・広報開始
ワークショップのコーディネーター指導
7月 「福島に生きる」を考えるワークショップ
事業実施

- 広報活動 : チラシ1,000部、ポスター10部、FBイベントページ、
定例記者会見、学内広報、仮設住宅訪問 等

- 事業効果 :
(定性的効果) 大学の存在を強くアピール
周辺地域を巻き込んだ広報戦略を行ったことで、福島大学の価値を対外的に高めることにつながった。

- 今後の展望等 : ワークショップの進行をスムーズにし、参加者により有意義な時間を過ごしてもらえそうな工夫をしたい。加えて、より対外的なアピールを図っていきたい。

- 感想等 : 今回は初めての企画でとまどいもあったが、来場者した地域の方々から「楽しかった」という声を頂き、自信につながった。
このような機会を通して、地域と大学を結ぶ橋渡しを、学生が自主的な企画で経験できることは、意義深いと思われるとともに、様々な視点で社会をとらえる訓練にもなり、自分自身にとっても貴重な体験となった。

■アンケート調査結果

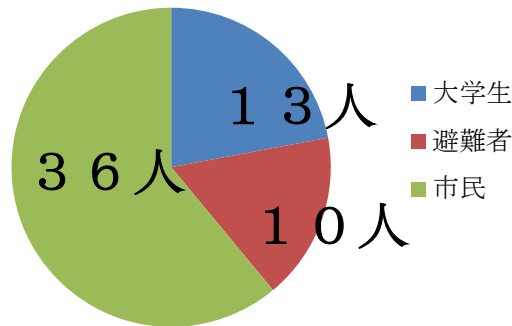
(調査日) : 平成24年7月13日(土)

(回答者数) : 59名

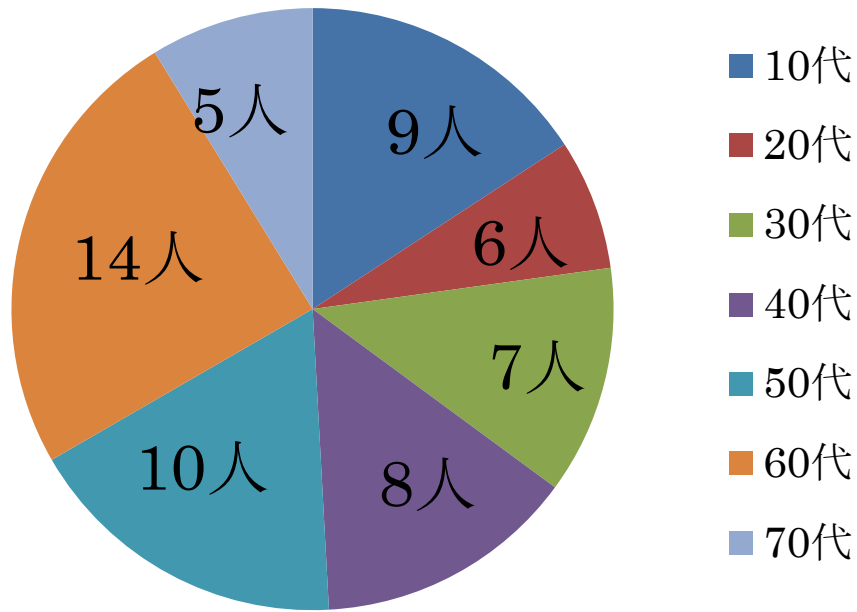
(内訳) 大学生13名 / 避難者10名 / 市民36名

(調査結果概要) : 大学生、避難者、市民という異なる立場の3者が集まる場と設定していたが、SNSや呼びかけによって予想以上に市民の方々が多く集まったため3者均等の割合とはなかななかった。しかし来場者の年齢層に注目すると、10代から70代まで幅広くかつまんべんなく集まった。そのため、参加者からは異なる世代との交流がよい刺激になったという声が多く聞かれ、全体としては概ね好評という評価だった。

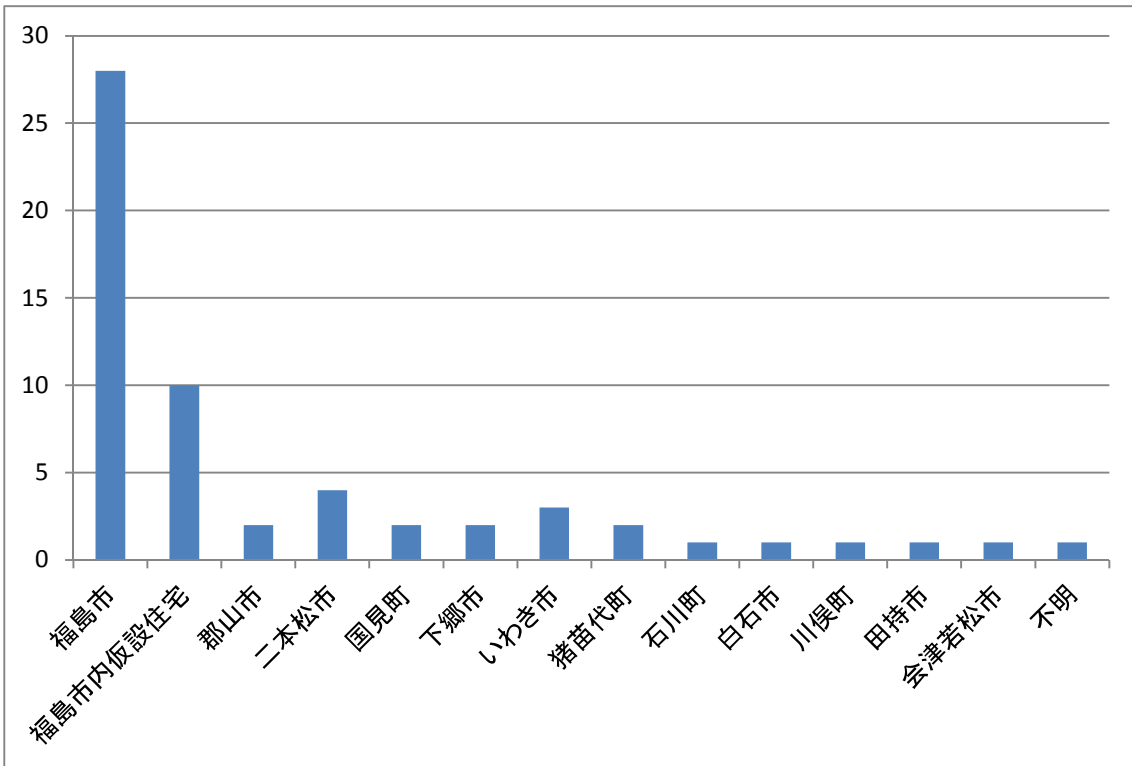
人数グラフ



参加者年代別グラフ



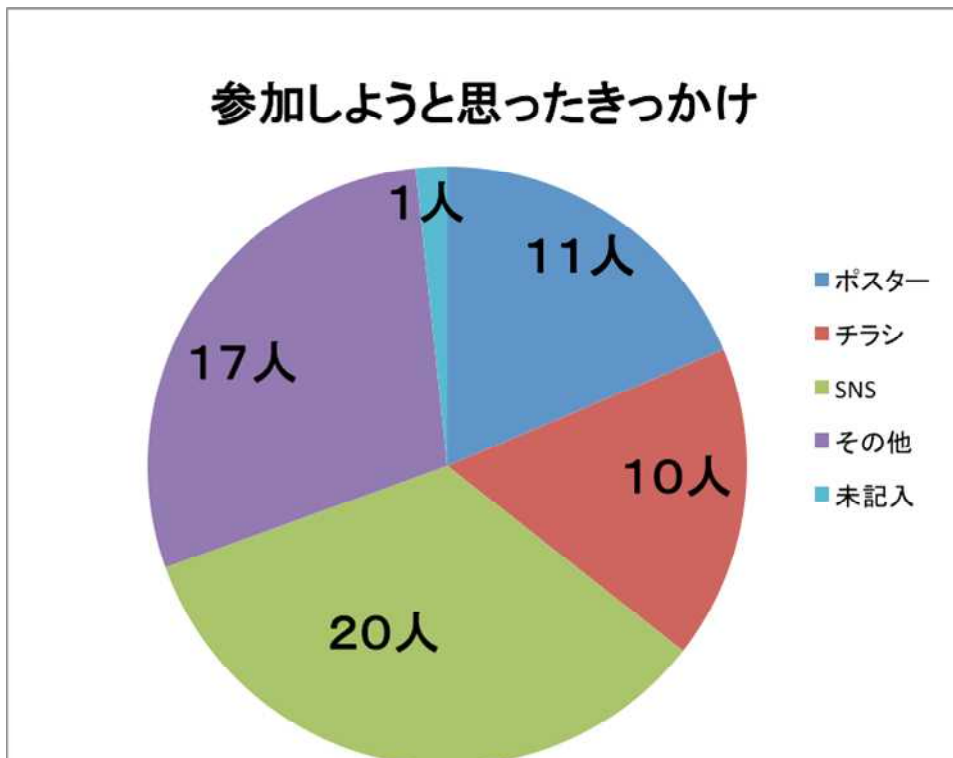
<参加者の居住地>



1. 参加しようと思ったきっかけを教えてください。

- 1 ポスターを見て
- 2 チラシを見て
- 3 SNSを見て
- 4 福島大学のHPを見て
- 5 その他

<1.参加しようと思った理由>



・参加者の声

絆について考えたい

福島の人を考えを聞きたい

他の人の考え方、見方を知らなかった。

西川ゼミの学生が企画し、福島のことを考える企画に魅力を感じる。

福島の復興について考えているから

以前古川さんの話を聞いていたから

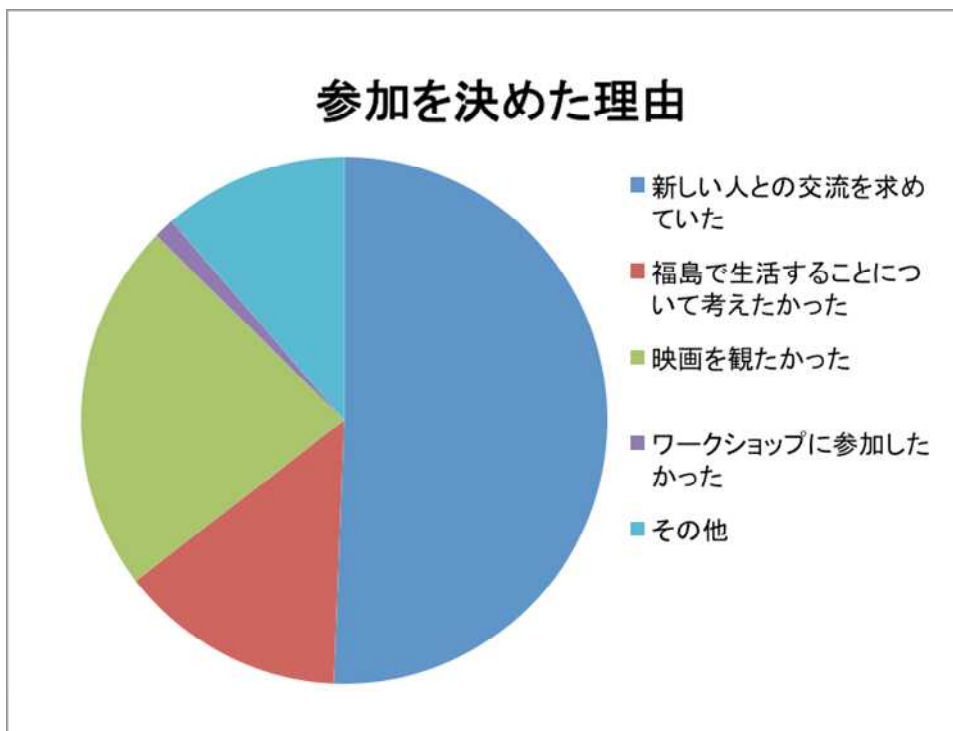
震災後、学生の方々が社会とどのようなかわりを持とうとしているか関心があったため

テーマ、題名に惹かれた

2. 参加を決めた理由を教えてください。※複数選択可

- 1 新しい交流を求めていたから
- 2 福島で生活することについて考えたかったから
- 3 映画「トテチータ・チキチータ」を観たかったから
- 4 ワークショップに参加したかったから
- 5 その他

<2.参加を決めた理由>



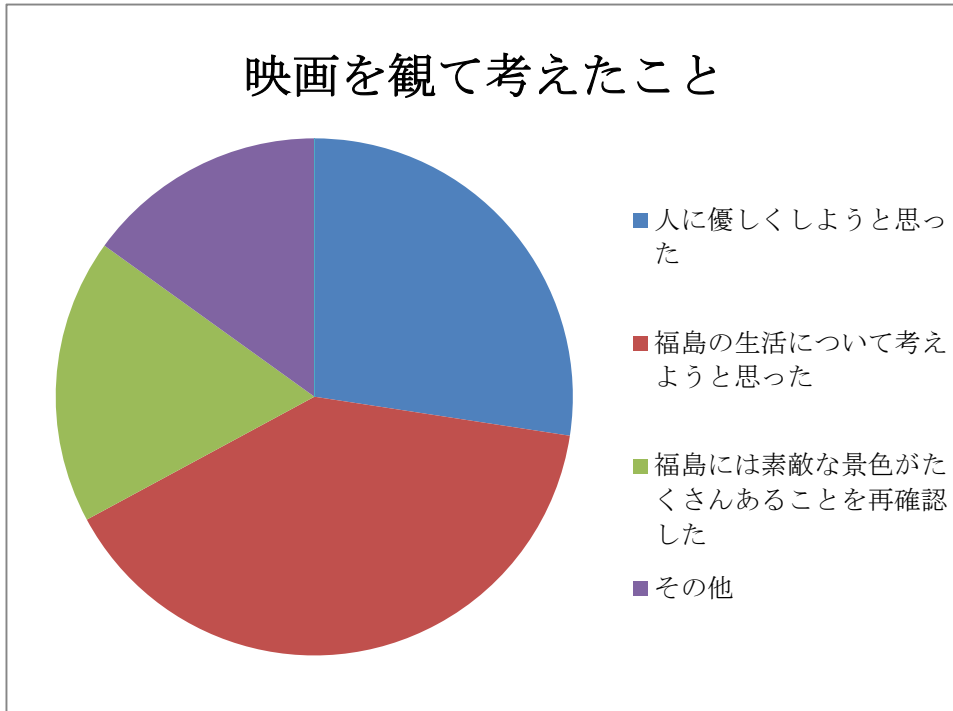
・参加者の声

- これからも年上の人と接する機会を増やしたい(10代男性)
- いろいろな人の考えを聞くことができ、有効的だと感じた(20代男性)
- いろいろな人とのふれあいが大切と思った(50代男性)
- 多くの方々との話を交わしたいと思った(60代男性)
- 福島のために何ができるのかを考えるきっかけになってよかった(10代女性)
- いろいろな人の考え方を知りたいと思った(60代女性)
- 真実探求のため交流をしたいと感じた(60代男性)
- いろいろな人の意見や考えを聞きたいと思った(50代女性)
- 若者の意見をもっと聞きたい(40代男性)

3. 映画を観た後で、意識の変化や考えたことはありましたか。※複数選択可

- 1 人に優しくしようと思った
- 2 福島の生活について考えようと思った
- 3 福島には素敵な景色がたくさんあることを再確認した
- 4 その他

<3.映画を観て考えたこと>



・参加者の声

学生諸君には真実を尊び大いに議論し社会正義を求め貫いてほしい

家族を大切にしたい

目的とした視点は理解できたが全体的にぼやけた感じがしたのが残念

福島県民の温かさを改めて感じた

映像を通してみると普段見ている景色も素敵だと感じた

家族との想い「絆」の再確認

ふるさと、家族っていいなと思った。見慣れた風景、聞きなれた方言にみんな涙していた感動した。

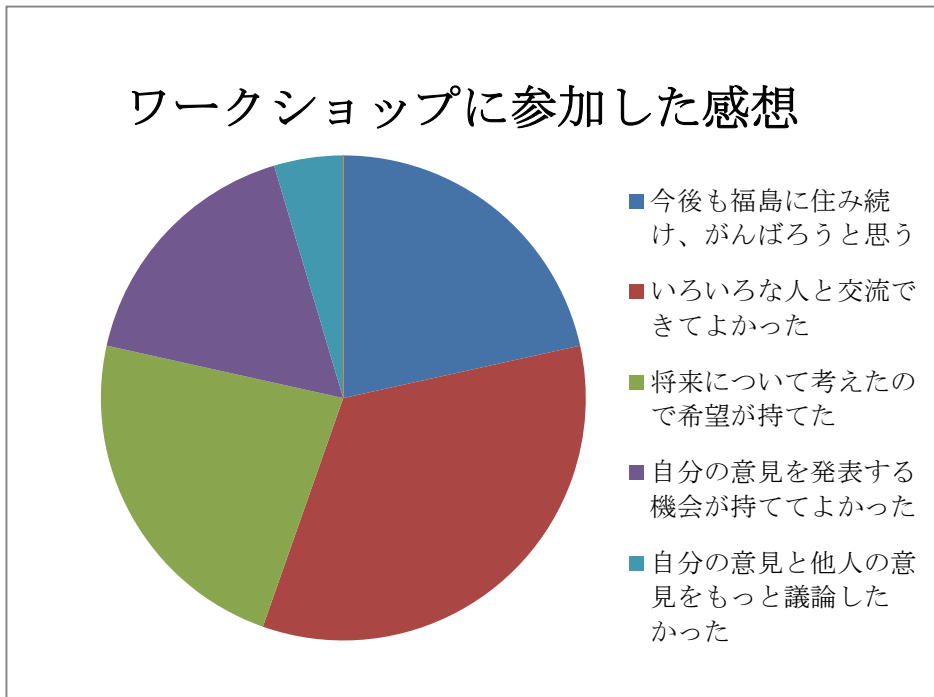
素晴らしい映画だった。学生の皆さんありがとうございました

家族について考えようと思った

4. ワークショップに参加された感想を教えてください。

- 1 今後も福島に住み続け、がんばろうと思う
- 2 いろいろな人と交流できてよかった
- 3 将来について考えたので希望が持てた
- 4 自分の意見を発表する機会が持ててよかった
- 5 自分の意見と他人の意見をもっと議論したかった

<4.ワークショップに参加した感想>



大変意義のある映画、ワークショップだった(40代男性)

立場や生き方が違うと、見方や考え方もいろいろだなと思った(50代男性)

意見を交わすのは面白かった(10代女性)

これがきっかけで福島に対する理解が深まった(30代女性)

このようなイベントで各世代の交流が進むのは好ましい(20代男性)

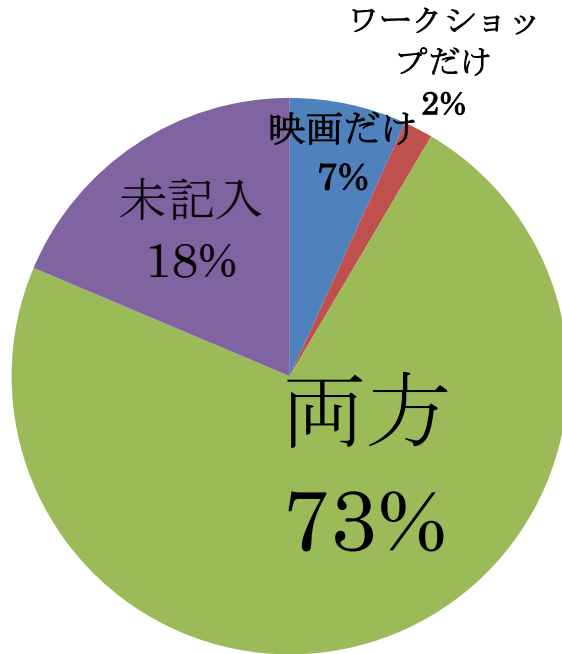
市民と学生の交流が魅力的(20代男性)

自分の考えを深め、福島県民の生の声を聞くことができるいい機会になった(10代女性)

新鮮な気持ちで仕事にフィードバックできそう(40代男性)

家族の見直し、学生も含めた話ができ(50代男性)

またこのようなイベントがあれば参加したいですか？



<その他 参加者の声>

非常に良い取り組みだと思う(30代男性)

大切だと思うからまた次回もあれば参加したい(10代男性)

機会があればまた参加したい(30代女性)

気軽に参加できていい(20代男性)

できることはしないと、と思った。勇気をいただいた。ありがとう学生諸君(50代男性)

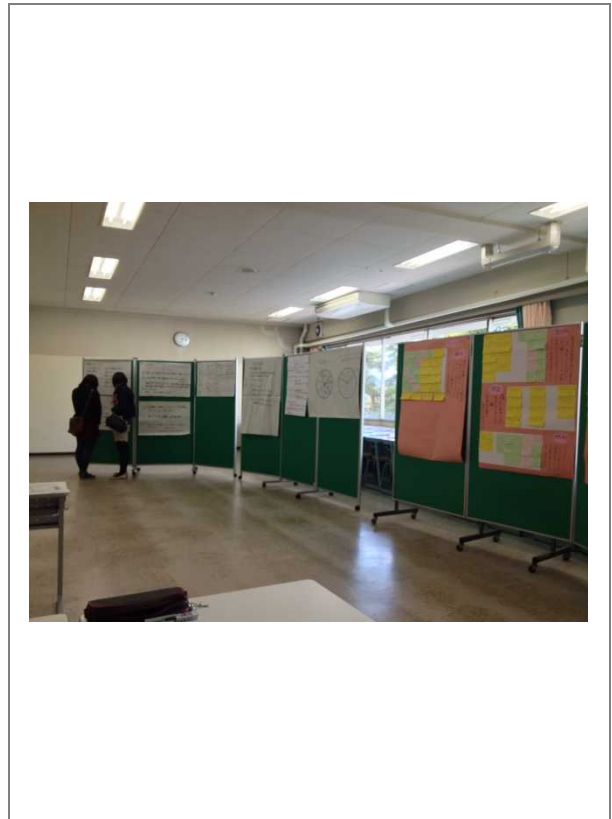
年齢層が広がったのでいろいろな方の想いを聞いてみたかった(40代女性)

福島県民の方の意見をもっと知りたいと思った(10代男性)

■文化祭の様子



文化祭ブース



文化祭ブース

■掲載記事

福島の未来考えよう

福島大経済経営学類（白河市）が映画への
西川和明ゼミのワーク
ショップ「『福島に生
きる』を考える」は十
四日午後一時半か
ら福島大で開かれ
る。

福島大キャンパ
スライフ活性化事
業の一環。映画上
映とワークショップ
を通して福島の
未来のビジョンを
考える。

映画上映では、
震災後に本県を舞
台に製作された映
画「トテテータ・チキ
チータ」を上映する。
上映前には、プロデ
ューサーの古川雅裕さん
と村山菜月さん
は「意見交換を通し新
たな絆を生み出してほ
しい」と参加を呼び掛
けている。

ワークショップ
のあすワ
ークシ
ョップ
は、入場無料。問い
合わせは同学類の
増川大輔さん 電
話090（878
7）9594へ。

同学類の増川さ
んと村山菜月さん
は「意見交換を通し新
たな絆を生み出してほ
しい」と参加を呼び掛
けている。

ワークショップを
PRする増川さん
（右）と村山さん

【福島民報 H23.7.13 福島の未来考え
よう】